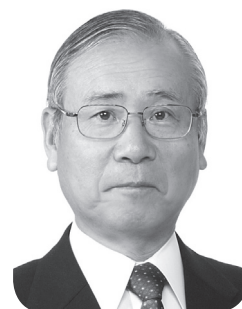


PC の技術で持続型社会の 基盤を支える

勝 木 恒 男*



2012 年がスタートしました。年は改まりましたが、昨 2011 年は日本国民にとって忘れられない年となりました。東日本大震災に福島第一原発事故が加わり、千年に一度といわれる誰もが未経験の大惨事となりました。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。また復旧が遅れていることに心を痛めておりますが、復興の予算措置も整ってきており、今後復旧工事に拍車がかかってくると思います。歴史上天変地異によって国や文明が失われた例は多々ありますが、この度の災害では、国土全体が被災したわけではありません。国を挙げて復旧、復興に立ち向かい、震災前より格段に強固で安全な国土を築くことが、被災地に向けてのわれわれの務めだと思います。

PC 建設業協会（以下 PC 建協）では地震発生後直ちに本部に災害対策本部を設置し、東北支部を主体とした橋梁点検調査班を現地に派遣いたしました。延べ 350 名で道路橋約 1 400 橋を調査した結果、「南三陸海岸で一部は津波によって落橋しているものの、おおむね健全であった。地震動そのものによる被害は少なく、落橋防止対策、耐震補強対策が十分に効果を発揮したものと思われる。」という報告でした。ひび割れを制御、抑止することで高い耐久性が得られるのが PC 構造物の特性ですが、鋼構造と比べ重くなるのが不利とされてきました。ところが、津波に対してはこの重さが幸いしたようです。

今後、被災地の復興に向け復興道路、復興支援道路の整備が急ピッチで進められます。その整備にはこのような技術特性や、現地生産による地域経済への波及効果等を勘案し、是非とも PC 技術の有効活用を図ってほしいものと考えます。

また PC 建協は漁港地区等を対象に津波対策まちづくりを活用できる「人工地盤」を提案しています。PC 構造の利点である高強度、高耐久性を生かし、PCaPC 構造でスピーディに大空間を構築し、漁港の荷捌き所、

上部を、駐車場、避難所等々多目的に利用できるものと考えております。全国の漁港、港湾施設にも有用とされます。

さて、この度の震災では、三陸の沿岸を走っている国道 45 号がずたずたになり、ほとんどの沿岸の都市も壊滅的な被害を受けていました。このとき人命救助と救援のため、東北地整は国道 45 号に向かって内陸の国道 4 号から 16 本の補給路を啓開しました。これが「くしの歯作戦」で救援活動の生命線になったことはご存じのとおりです。一刻を争う災害時における道路の重要性は、今回の災害で明白になりました。高速道路網が整備されていたならと歯がゆく思います。災害時の対応のみならず地方経済の活性化のためにも、高速道路網の早期展開が必要と思います。

一方で、厳しい財政制約の下にあることも十分に承知しています。そのためにも今後の国土基盤の整備には、高い耐久性を有しライフサイクルコストの低減を可能とする PC の技術の効果的な活用が進められるべきと考えます。また、これまでの社会資本のストックを長持ちさせ有効に活用し続けるためにも PC の技術が活かされるべきと考えています。まさに PC は持続型社会の基盤を支える技術であると考えてるのであります。

このようなことから、新たに策定する PC 建設産業のビジョンにおいては、PC の専門技術を有する企業集団として私たちが果たす役割は引き続き大きなものがあるとし、そのためにも、社会の PC 技術に対する理解を広げること、技術の普及活動が大変重要であるとしております。

PC 建協は、本年、この新ビジョンの下に活潑な活動を展開したいと考えております。PC 技術協会の皆様のご理解をいただき、皆様と手を取り合って取り組むことができれば願っております。

* Tsuneo KATSUKI：(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 会長
(株)ピーエス三菱 代表取締役社長